

令和2年3月期

決算概況

のと共栄信用金庫

令和2年3月期 決算の概況

1. 損益の概要

●単体決算は8期ぶりの増収となりました。

利回りの低下が継続するなかで資金の効率的運用に努めた結果、有価証券利息配当金が増加したことに加え、預かり資産手数料等の役務取引等収益が増加したことにより、経常収益は8期ぶりに増加し、42億3,500万円となりました。

一方、経費の削減に引き続き努めたものの、新型コロナウイルスの影響で株式市場が下落したことや、将来に備えて不良債権の償却を進めたことにより、臨時費用が一時的に増加し、経常利益、最終利益は共に3期連続の減益となりました。

なお、本業の利益を示すコア業務純益は10期ぶりに増加し、4億2,400万円となりました。

<単位：百万円>

	令和2年3月期	平成31年3月期	増減※	増減率※
経常収益	4,235	4,105	130	3.17%
経常費用	4,035	3,798	236	6.23%
コア業務純益	424	309	114	37.03%
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	346	251	94	37.69%
経費	3,058	3,102	△44	△1.42%
人件費	1,701	1,727	△25	△1.49%
物件費	1,293	1,320	△26	△1.99%
資金利益	3,372	3,347	25	0.76%
役務取引等利益	109	59	49	84.09%
有価証券関係損益	38	65	▲27	▲41.41%
債券関係損益	169	15	153	1,013.12%
株式等関係損益	▲130	50	▲181	▲357.82%
不良債権処理費用※	298	52	246	473.49%
一般貸倒引当金	△4	△69	64	-
個別貸倒引当金	94	110	△15	△14.39%
貸出金償却	217	28	188	656.42%
経常利益	200	306	▲106	▲34.72%
当期純利益	95	200	▲104	▲52.07%

※不良債権処理費用は、個別貸倒引当金や貸出金償却等の個別債権に対する処理費用に、一般貸倒引当金、偶発損失引当金および償却債権取立益を加減しています。

※増減(率)欄のマイナス符号は、当該項目の減少が業績の良化要因となる場合は「△」を、悪化要因となる場合は「▲」を付しています。

2. 預貸金等の概要

- 預金残高は、金融機関預金が減少したことから、前期末比 29 億 7,200 万円（0.9%）減少し、3,101 億 5,100 万円となりました。

低金利の継続を反映し普通預金等へのシフトが進み、要払性預金が 63 億 8,300 万円（5.2%）増加したのに対し、定期性預金は 93 億 5,500 万円（4.8%）減少しました。また、個人事業者、法人、公共団体の預金はともに減少したものの、個人預金は増加しました。

<単位：百万円>

	令和 2 年 3 月期	平成 31 年 3 月期	増 減	増減率
預 金 残 高	310,151	313,123	▲2,972	▲0.94%
定期性	183,157	192,512	▲9,355	▲4.85%
要 払 性	126,994	120,611	6,383	5.29%
個 人	222,697	221,417	1,279	0.57%
個人事業者	21,434	21,477	▲43	▲0.20%
法 人	47,494	50,932	▲3,438	▲6.75%
公 金	18,525	19,294	▲768	▲3.98%

- 貸出金残高は、前期末比 45 億 4,400 万円（2.6%）増加し、1,765 億 5,100 万円となりました。また、これにより預貸率は 1.99 ポイント上昇し、56.92%となりました。

資金の用途別では、事業性融資は増加したものの、住宅ローンを中心とした個人ローンおよび地公体向け融資は減少しました。

<単位：百万円>

	令和 2 年 3 月期	平成 31 年 3 月期	増 減	増減率
貸 出 金 残 高	176,551	172,007	4,544	2.64%
個人ローン	35,887	36,755	▲868	▲2.36%
事業性資金	105,557	99,781	5,776	5.78%
地公体向け	35,106	35,469	▲363	▲1.02%
預 貸 率	56.92%	54.93%	1.99 ポイント	3.62%
事業性先数	4,148	4,241	▲93	▲2.19%

- 預かり資産残高は、新型コロナウイルスの影響による株式市場の下落により、前期末比 12 億 5,000 万円（5.3%）減少し、221 億 8,200 万円となりました。

<単位：百万円>

	令和 2 年 3 月期	平成 31 年 3 月期	増 減	増減率
預かり資産残高	22,182	23,432	▲1,250	▲5.33%
投資信託	4,790	5,563	▲773	▲13.91%
保 険	14,520	14,895	▲375	▲2.52%
国 債	2,872	2,973	▲101	▲3.39%

3. 不良債権額（金融再生法開示債権）の概要

●金融再生法上の不良債権額は、前期末比 3 億 8,200 万円（7.3%）減少し、48 億 3,300 万円に、不良債権比率も 0.29 ポイント低下し、2.66%となりました。

また、保全率は前期末比 2.45 ポイント低下し、77.78%となりました。

<単位：百万円>

	令和 2 年 3 月期	平成 31 年 3 月期	増 減	増減率
不良債権額	4,833	5,216	△382	△7.32%
総与信残高	181,635	176,961	4,673	2.64%
不良債権比率	2.66%	2.95%	△0.29 ポイント	△9.83%
保 全 額	3,759	4,185	▲425	▲10.16%
貸倒引当金	895	1,268	▲373	▲29.46%
担保・保証	2,864	2,916	▲51	▲1.76%
保 全 率	77.78%	80.23%	▲2.45 ポイント	▲3.05%

4. 有価証券の評価損益の概要

●有価証券の評価損益は、新型コロナウイルスの影響による株式市場の下落により、前期末比 9 億 3,100 万円（112.5%）減少し、1 億 300 万円の評価損となりました。

<単位：百万円>

	令和 2 年 3 月期	平成 31 年 3 月期	増 減	増減率
評 価 損 益	▲103	828	▲931	▲112.53%
評 価 益	873	1,319	▲446	▲33.85%
評 価 損	976	491	484	98.58%

5. 自己資本比率の概要

●貸出金の伸長によりリスクアセットが前期末比 64 億 4,200 万円（4.5%）増加し、これにより自己資本比率は前期末比 0.53 ポイント低下し、12.81%となりました。

（国内基準）

<単位：百万円>

	令和 2 年 3 月期	平成 31 年 3 月期	増 減	増減率
自 己 資 本 額	19,164	19,092	72	0.37%
普通出資等	19,044	18,970	74	0.39%
リスクアセット※	149,538	143,095	6,442	4.50%
自 己 資 本 比 率	12.81%	13.34%	▲0.53 ポイント	▲3.97%
普通出資等比率	12.73%	13.25%	▲0.52 ポイント	▲3.92%

※リスクアセットとは、貸出金等の資産をリスクの大きさに応じて再評価した資産金額です。

6. 出資配当率

●昨年度と同率の2.0%としました。

	令和2年3月期	平成31年3月期	増減
出資配当率	2.0%	2.0%	0.0%

7. 令和3年3月期業績予測

●有価証券関係益の減少で減収となるものの、臨時費用の減少により4期ぶりの増益を見込んでおります。

<単位：百万円>

	令和3年3月期	令和2年3月期	増減	増減率
経常収益	3,934	4,235	▲301	▲7.1%
コア業務純益	412	424	▲12	▲2.8%
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	392	346	46	13.2%
経常利益	257	200	57	28.5%
当期純利益	166	95	71	74.7%

以上